

住友生命健康財団
2019 年度 スミセイ コミュニティスポーツ推進助成プログラム
～コミュニティスポーツによる健やかなひとづくりと社会づくりにむけて～

選考結果のご報告

2020 年 4 月

公益財団法人 住友生命健康財団

目 次

1. 選後総評	．．．．．	2
2. 助成対象プロジェクト一覧	．．．．．	4
3. 第1種 助成対象プロジェクトの実施概要	．．．．	7
4. 第2種 助成対象プロジェクトの推薦理由	．．．．．	12
5. 第1種・第2種 新規助成の応募状況	．．．．．	15
6. 応募要項	．．．．．	17

選 後 総 評

選考委員長 中野 泰三郎

はじめに

本プログラムは、2010 年に創設され、今回で丁度 10 回目の助成を迎えています。

助成課題には、一般と特定があり、特定課題は、社会参加に困難を抱える人たちを中心としたコミュニティスポーツを対象とし、心身の障がいのある人や長期療養を必要とする人たちの社会参加が促進されることを期待しています。

また、助成コースは、第 1 種と第 2 種があり、第 2 種助成では、地域や分野の異なる複数の団体が連携した、コミュニティスポーツの発展と普及に向けた取り組みを対象とするなど、コミュニティスポーツの多様な実践と展開を応援する仕組みになっています。

選考のプロセスと選考結果

昨年の 8 月 1 日に公募を開始し、10 月 4 日の応募締切までに、第 1 種は新規助成に 115 件、継続助成に 13 件の応募がありました。また、第 2 種は新規助成に 25 件、継続助成に 4 件の応募がありました。

第 1 種、第 2 種ともに、新規助成は、応募団体が要件に合っているかどうか、応募内容が第 1 種または第 2 種に相応しいかどうか、あるいは、一般課題または特定課題に相応しいかどうかをチェックするため、予備選考を行いました。

その結果、新規助成は、第 1 種は 42 件、第 2 種は 11 件が本選考に進み、継続助成の全ての応募と併せて、本選考で評価することとなりました。

本選考では、委員 6 名が選考基準に従って各自であらかじめ内容を評価しました。12 月 3 日に選考委員会を開催し、各委員が持ち寄った評価結果をもとに、長所や課題を検討しました。

第 1 種の新規助成と継続助成は、選考委員会で助成対象を選びました。第 2 種は、選考委員会が助成候補に選んだ新規助成 4 件と継続助成 3 件について、事務局が団体に対してヒアリングを行い、その情報を評価材料に加えて、選考委員長が助成対象の選定を行いました。

最終的に、第 1 種助成は新規 15 件・助成金額 726 万円、継続 7 件・助成金額 348 万円、第 2 種助成は新規 4 件・助成金額 645 万円、継続 2 件・助成金額 399 万円、合計 28 件・2,118 万円の助成を決定しています。助成対象プロジェクトの一覧、実施概要、推薦理由を別途掲載していますのでご覧ください。

選考を振り返って

今年度は、昨年度比応募件数が 20 件増加し、ここ数年では最多の応募が集まりました。地域に密着した地道な活動にスポットライトを当てるプログラムの特色を活かすためにも、引き続き、幅広く周知に努めていくような運営を財団に望みたいと思います。

応募を募る際には、従来より範囲を広げて福祉関連の団体あてにも案内をいたしました。もともと本プログラムは、スポーツ団体に対象を限定していませんので、スポーツを切り口として地域のコミュニティ活動を展開するようなプロジェクトにも、積極的に支援をしてきました。今年も、福祉活動の一環にスポーツを取り入れていく計画が多く寄せられ、本助成プログラムの特徴の一つとなっています。今後とも地域に根ざした活動がさらに広がっていくことを期待しています。

応募された団体が、限られた財源と人材を何とかやりくりして、苦勞されていることは、想像に難くありません。ただ、助成選考にあたっては、あくまでも提出いただく「応募企画書」に記載されている内容のみを材料にして、評価させていただく他ありません。したがって、その書き方の巧拙が少なからず影響することも否定できません。「折角、いい活動を進めようとしているのに、もう少し具体的にわかりやすく説明してもらえないものか。そうすれば評価ポイントがアップするのに・・・。」という声が毎年選考委員から寄せられます。取り組む課題、実現したい成果等、助成金をお渡しすることでどんな事業を実施され、どんな社会、コミュニティを実現されようとしているのか、そういう道筋をできるだけ丁寧に記載をしていただけると伝わってくるものも多くなると思います。

この応募を通じて、日頃の運営で工夫されている点、苦勞されていることなどを整理していくことで、直接的な助成支援事業だけではなく、これから取り組もうとする団体としての活動や課題が鮮明になるきっかけにもなると思います。そういう大局観の中で、助成対象事業の位置付けやその継続のためのステップを吟味していただきたいと思います。

健康寿命をいかに伸ばすかが我が国の大きな課題として取り上げられていますが、コミュニティスポーツに取り組まれている皆さんの活動は、その解決策のひとつであることは疑う余地がありません。ますますのご活躍をお祈りしています。

○2019 年度選考委員会

(委員の肩書は選考委員会当日のものです)

選考委員長	中野 泰三郎	元公益財団法人 日本バレーボール協会 会長 公益財団法人 住友生命健康財団 理事
選考委員	大浜 あつ子	特定非営利活動法人 スマイルクラブ 理事長
選考委員	長田 渚左	ノンフィクション作家 特定非営利活動法人 スポーツネットワークジャパン 理事長
選考委員	金田 安正	アクティブライフ・スポーツ教室 代表
選考委員	新田 英理子	一般社団法人 SDGs 市民社会ネットワーク 事務局長
選考委員	松尾 哲矢	立教大学 コミュニティ福祉学部 スポーツウエルネス学科 教授
選考委員	松井 和博	公益財団法人 住友生命健康財団 常務理事

助成対象プロジェクト一覧

第1種助成

(特定の地域を拠点として独自のコミュニティスポーツに取り組むもの)

第1種 新規助成

一般	特定	プロジェクト名	団体名	代表者名	所在地	助成金額 (万円)
○		子供からお年寄りまで「みんなで楽しむ」軽スポーツ交流事業	特定非営利活動法人 いろどりライフ	代表理事 森内 卓爾	青森県 平川市	42
○		スポーツで広げるコミュニティ作り	特定非営利活動法人 総合型りくぜんたかた	理事長 村上 勝	岩手県 陸前高田市	49
○		地域で運営するグラウンド・ゴルフ場及び 市民農園の活用プロジェクト ～「スポーツ」+「農」による健康づくり・ 交流促進・地域活性化を目指して～	新浜町内会	会長 遠藤 芳広	宮城県 仙台市	50
○		スマイルスポーツ！ ～地域みんながおともだち作戦～	特定非営利活動法人 むらたスポーツクラブ	理事長 村上 利仁	宮城県 柴田郡 村田町	43
	○	スポーツでつなぐ障がいをもつ子供と 家族が地域とつながるネットワークづくり	重度心身障がい児親子の会 マイリーサン	代表 高橋 育恵	東京都 北区	50
○		高齢者のための『転倒予防体操 教室』の充実と拡大	特定非営利活動法人 神奈川県転倒予防医学研究会	理事長 朝香 好平	神奈川県 横浜市	49
○		地域の公園を遊びと交流の拠点に	特定非営利活動法人 クラブぽっと	理事長 佐川 哲也	石川県 金沢市	50
○		みんなで富士山麓を清掃トレッキング！	富士山アウトドアミュージアム	代表 舟津 宏昭	山梨県 南都留郡 富士河口湖町	50
	○	移動に困難を抱える肢体不自由児の 参加機会を増やす「遠隔ボッチャ」試 合システム	特定非営利活動法人 ドロップレット・プロジェクト	代表理事 青木 高光	長野県 千曲市	50
	○	心疾患患者の予後改善のための運 動による支援地域連携システム	岐阜心臓リハビリテーション ネットワーク (CR-GNet)	代表 湊口 信也	岐阜県 岐阜市	50
○		健康寿命延伸事業 「健康スポレクひろば in 住之江」	公益財団法人 大阪府レクリエーション協会	代表理事 高杉 豊	大阪府 大阪市	50
	○	発達障がいを持つ青少年のクラブ活 動プロジェクト	特定非営利活動法人 アスロン	理事長 井原 一久	兵庫県 芦屋市	49

2019 年度 スミセイ コミュニティスポーツ推進助成プログラム

一 般	特 定	プロジェクト名	団体名	代表者名	所在地	助成 金額 (万円)
○		パットゲームスター(室内グラウンド・ゴルフ)で高齢者の健康長寿と仲間づくり事業	鳥取県パットゲームスター協会	会長 林 邦臣	鳥取県 東伯郡 湯梨浜町	50
	○	心身の障がいや長期療養などにより社会参加に困難を抱える人々を中心としたコミュニティスポーツの実践	アクアクラブ	代表 田邊 妙子	広島県 三次市	44
	○	不器用さのある子どもたちのヒップホップダンスプロジェクト～感覚統合的視点で楽しく苦手を克服しよう！～	非営利活動任意団体 リトル・キッカーズ	代表 宮本 寛	香川県 高松市	50
助成件数：15 件 助成金額：726 万円						

第1種 継続助成

一 般	特 定	プロジェクト名	団体名	代表者名	所在地	助成 金額 (万円)
○		【心の健康(メンテサナ)、体の健康(クエルポサノ)】 サッカー×教育プロジェクト	Comerciante Osaka FC	代表 Aragon Caceres Itaro	大阪府 大阪市	50
	○	小児がん経験者のための アーティスティックスイミング	特定非営利活動法人 チャイルド・ケモ・ハウス	理事長 米田 光宏	兵庫県 神戸市	50
	○	知的障がい者のバスケットを通じて の居場所づくり～日本代表へ	広島市知的障がい者 バスケットボールチーム	代表 能美 美幸	広島県 広島市	50
○		「Glocal Journey」 コミュニティスポーツを活用した 地域の国際化	特定非営利活動法人 ワン・フォー・オール	理事長 河野 邦彦	山口県 宇部市	50
○		パットゴルフで「おとな」も「こども」も 元気いっぱい	クラブネッツ大畑	会長 村中 利夫	山口県 長門市	50
○		走って社会貢献～新しいスタイルの マラソン大会「Adventure」	NPO法人 改革プロジェクト	代表理事 立花 祐平	福岡県 宗像市	48
	○	障がいのある子どもたちの「楽しい」 スポーツ・水泳プロジェクト	鹿児島パラアスリートクラブ	代表 福水 優士	鹿児島県 鹿児島市	50
助成件数：7 件 助成金額：348 万円						

第2種助成

(地域や分野の異なる複数の団体が協力してチームをつくりコミュニティスポーツの発展と普及に取り組むもの)

第2種 新規助成

一般	特定	プロジェクト名	団体名	代表者名	所在地	助成金額 (万円)
○		北海道岩見沢市のスノースポーツ・コミュニティ再構築プロジェクト ～北欧発祥の「ヒールフリー」のスキー・プログラムを活用して～	一般社団法人 SLDI	代表理事 辻本 智也	北海道 岩見沢市	150
○		住民が住民に伝える「シルバーリハビリ体操(介護予防体操)」×「健康講話紙芝居(健康教育)」で目指す健康寿命の延伸	NPO法人 日本健康加齢推進機構	理事長 大田 仁史	茨城県 水戸市	150
○		スポーツを通し山の魅力を伝え継ぐ ～山離れなんてもったいない!～	NPO法人 武尊根 BASE	理事長 小石 俊一	群馬県 利根郡 片品村	200
	○	地域で支える知的障がい児・発達障がい児対象のサーフィンスクール	認定NPO法人 Ocean's Love	理事長 鈴木 薫	神奈川県 茅ヶ崎市	145
助成件数 : 4 件 助成金額 : 645 万円						

第2種 継続助成

一般	特定	プロジェクト名	団体名	代表者名	所在地	助成金額 (万円)
	○	発達凸凹の子ども達が輝くインクルーシブな柔道環境をつくる三つの取り組み ～ワークショップとオンライン相談会、有志がつながる全国サミット、電子書籍～	特定非営利活動法人 judo3.0	代表理事 酒井 重義	宮城県 牡鹿郡 女川町	199
	○	誰もが一緒に安全で安心して海洋スポーツ(パラダイビング)を楽しめる推進プロジェクト	特定非営利活動法人 オーシャンゲート ジャパン	代表 白杉 芳彦	大阪府 大阪市	200
助成件数 : 2 件 助成金額 : 399 万円						

第1種 助成対象プロジェクトの実施概要

(特定の地域を拠点として独自のコミュニティスポーツに取り組むもの)

<新 規>

プロジェクト名	子供からお年寄りまで「みんなで楽しむ」軽スポーツ交流事業(一般課題)
団 体 名	特定非営利活動法人いんどりライフ(青森県平川市)
実 施 概 要	青森県平川市は高齢化率が高く、今後も1人暮らし世帯や認知症高齢者が急増することが予想されている。本団体は地域コミュニティの活性化を目指して、高齢者が気軽に集まれる居場所を毎月運営している。本プロジェクトでは、高齢者だけではなく地域の誰もが参加できる軽スポーツ交流事業を開催することで、住民同士が支え合う共生社会の構築を目指す。

プロジェクト名	スポーツで広げるコミュニティ作り(一般課題)
団 体 名	特定非営利活動法人総合型りくぜんたかた(岩手県陸前高田市)
実 施 概 要	東日本大震災から9年が過ぎた現在、災害公営住宅などでは新しい入居者を迎えたコミュニティ作りが必要とされている。本団体は仮設住宅や公民館などで年代に合わせたスポーツ教室を行っている。地区単位でニュースポーツやミニ運動会を開催しながら参加者同士の交流を促し、新しいコミュニティ作りの一助となるよう取り組んでいく。

プロジェクト名	地域で運営するグラウンド・ゴルフ場及び市民農園の利活用プロジェクト～「スポーツ」+「農」による健康づくり・交流促進・地域活性化を目指して～(一般課題)
団 体 名	新浜町内会(宮城県仙台市)
実 施 概 要	仙台市の新浜地区は東日本大震災の津波浸水で甚大な被害を受けた場所である。本団体は仮設住宅から新浜地区に移設された「みんなの家」の運営管理を行いながら地域活動に取り組んでおり、今回は、新たに開園準備を進めているグラウンド・ゴルフ場と市民農園を活用したイベント開催を通じて、地域内外の参加者同士が交流できる機会を提供する。

プロジェクト名	スマイルスポーツ！～地域みんながおともだち作戦～(一般課題)
団 体 名	特定非営利活動法人むらたスポーツクラブ(宮城県柴田郡村田町)
実 施 概 要	この活動地域は、昔は学校と地域が合同で運動会を実施するなど世代間交流が自然と行われてきたが、人口減少によってその機会が減っている。本団体は子育て世代の親を対象としたヨガ教室と多世代参加のスポーツ交流会を実施。さらに世代間交流の楽しさを実感した参加者に向けて、相互交流が生まれるような定期教室を開講する。

2019 年度 スミセイ コミュニティスポーツ推進助成プログラム

プロジェクト名	スポーツでつなぐ障がいをもつ子供と家族が地域とつながるネットワークづくり（特定課題）
団 体 名	重度心身障がい児親子の会スマイリーサン（東京都北区）
実 施 概 要	東京都北区は障がい児・者が通う施設は対象者ごとに複数あるが、互いが連携する機会はほとんどない。本団体はこの地域特性を活かして、障がいの有無や障害種別に関わらず、誰もが参加できる大運動会を開催する。また種目ごとの練習日を事前に設けることでボランティアや参加者同士の交流を促し、支え合いのコミュニティ作りを目指す。

プロジェクト名	高齢者のための『転倒予防体操教室』の充実と拡大（一般課題）
団 体 名	特定非営利活動法人神奈川県転倒予防医学研究会（神奈川県横浜市）
実 施 概 要	高齢者は筋肉の衰えによる転倒・骨折が、介護を受ける要因の一つとなっている。本団体は老人ホームや地域施設で転倒予防教室を開催しており、参加希望者は年々増えている。そこで教室開催数を増やすために、運動専任トレーナーや体力測定員、ボランティアを育成し、高齢者が地域で健康的に、そして笑顔で過ごせるよう取り組んでいく。

プロジェクト名	地域の公園を遊びと交流の拠点に（一般課題）
団 体 名	特定非営利活動法人クラブぽっと（石川県金沢市）
実 施 概 要	近年、子どもたちの体力低下が問題となっているが、公園で遊ぶ子ども達の姿は減ってきている。本団体は総合型地域スポーツクラブとして地域のコミュニティスポーツの普及に取り組んでおり、新たに公園内に遊び場（プレイパーク）を作り、誰でも気軽に楽しく遊べる環境を提供しながら、公園が地域の交流の場となるよう情報発信を行う。

プロジェクト名	みんなで富士山麓を掃除トレッキング！（一般課題）
団 体 名	富士山アウトドアミュージアム（山梨県南都留郡富士河口湖町）
実 施 概 要	富士山麓は国内外から多くの観光客が訪れるが、地域の子どもたちにとっては「近くて遠い自然」であり、訪れる機会は少ない。本団体は富士山そのものを博物館と見立て、様々な活動に取り組んでいる。本プロジェクトでは、子ども達が身近な自然に愛着を持てるよう、富士山麓に住む小・中学生を対象とした掃除トレッキングや登山の機会を提供する。

プロジェクト名	移動に困難を抱える肢体不自由児の参加機会を増やす「遠隔ボッチャ」試合システム（特定課題）
団 体 名	特定非営利活動法人ドロップレット・プロジェクト（長野県千曲市）
実 施 概 要	肢体不自由のある児童生徒が共に楽しめるスポーツであるボッチャは、近年急速に競技人口が増加している。しかしながら、肢体不自由のある児童生徒は移動に困難を抱えている場合が多く、他のチームとボッチャを楽しむ機会や経験が不足しがちである。本プロジェクトでは、遠隔地のチーム同士が通信を介してボッチャの練習試合を簡単に行えるシステムを構築することで、より日常的にスポーツを楽しむ環境づくりを目指す。

2019 年度 スミセイ コミュニティスポーツ推進助成プログラム

プロジェクト名	心疾患患者の予後改善のための運動による支援地域連携システム（特定課題）
団 体 名	岐阜心臓リハビリテーションネットワーク（CR-GNet）（岐阜県岐阜市）
実 施 概 要	近年、心疾患に対する治療法として、有酸素運動を中心とした運動療法を行う「心臓リハビリテーション」が、長期予後を改善することが明らかとなった。継続的な実施が望まれる一方、限られた保険適用期間では心臓リハビリテーションの継続が困難な患者が多いという課題がある。本団体は、地域の福祉施設やスポーツクラブ等において心臓リハビリテーションの継続的な実施を目指し、多職種のネットワークとシステムの構築を行う。

プロジェクト名	健康寿命延伸事業「健康スポレクひろば in 住之江」（一般課題）
団 体 名	公益財団法人大阪府レクリエーション協会（大阪府大阪市）
実 施 概 要	大阪市住之江区では、市内平均よりも高齢化率が高く、高齢世代の健康寿命の延伸が求められている。本団体は、特に体を動かしていない高齢者を対象に、「スポーツ未実施者参加促進事業」を実施する。楽しく体を動かすスポーツ・レクリエーションを継続的にを行い、高齢者一人ひとりの元気の回復を目指す。

プロジェクト名	発達障がいを持つ青少年のクラブ活動プロジェクト（特定課題）
団 体 名	特定非営利活動法人 アスロン（兵庫県芦屋市）
実 施 概 要	年々発達障がいを持つ子どもは増えてきているが、地域の中でスポーツに取り組める環境は十分ではない。本団体は、兵庫県尼崎市において、高校跡地にある専用グラウンド「アスロンプレイス」を利用し、発達障がいを持つ青少年を対象としたサッカー、陸上、グラウンドゴルフのクラブ活動を展開する。それにより自宅・職場以外での居場所づくりに取り組む。

プロジェクト名	パットゲームスター（室内グラウンド・ゴルフ）で高齢者の健康長寿と仲間づくり事業（一般課題）
団 体 名	鳥取県パットゲームスター協会（鳥取県東伯郡湯梨浜町）
実 施 概 要	本団体は、鳥取県内各所で高齢者の体力維持向上に向け、天候に左右されずに室内でできるパットゲームスター（室内グラウンド・ゴルフ）の活動に取り組んでいる。倉吉市では高齢化率が全国平均を上回り、高齢者の健康増進が望まれる。そこで、地域でのリーダー養成、サークルの組織化など高齢者の主体的なスポーツ活動を推進し、健康長寿を目指す。

プロジェクト名	心身の障がいや長期療養などにより社会参加に困難を抱える人々を中心としたコミュニティスポーツの実践（特定課題）
団 体 名	アクアクラブ（広島県三次市）
実 施 概 要	本団体は、過疎が進む広島県三次市において、加齢や疾病などの理由から孤立しがちな人々たちに対して、地域に新設された健康増進施設の歩行用プール・温泉を使ったプログラムを提供する。健康チェックやプールを活用した体操教室などを行い、参加者の心と体の機能の改善をはかるとともにコミュニケーションの場を設け、心身ともに健康な生活環境づくりに取り組む。

プロジェクト名	不器用さのある子どもたちのヒップホップダンスプロジェクト～感覚統合的視点で楽しく苦手を克服しよう！～（特定課題）
団 体 名	非営利活動任意団体 リトル・キッカーズ（香川県高松市）
実 施 概 要	発達障害児が持つ「不器用さ」は、「発達性協調運動障害」の可能性があることから専門的な支援の重要性が指摘されている。不器用さをもつ発達障害児にとって、ダンスに含まれる動作が「苦手だが必要なもの」と考えられることから、本団体は、作業療法士とダンス指導者が協力し、ダンス教室の実施と効果判定を行う。彼らの特性に合わせたダンス指導方法を構築し、発達障害児のコミュニティスポーツの場を広げていく。

<継 続>

プロジェクト名	【心の健康（メンテサナ）、体の健康（クエルポサノ）】サッカー×教育プロジェクト（一般課題）
団 体 名	Comerciante Osaka FC（大阪府大阪市）
実 施 概 要	この活動地域には、外国をルーツに持つ子どもや経済的にハンディのある子どもが数多く住んでいる。本団体は、子ども達がサッカーを通じて孤立しないよう仲間を作りながら精神面でも成長することを願い、クラブ運営に取り組んでいる。今年も子ども達が目標を持てるよう、大阪府サッカー協会の大会出場を目指して練習を行うとともに、活動が継続できるよう運営面の強化とクラウドファンディング等による資金獲得に取り組む。

プロジェクト名	小児がん経験者のためのアーティスティックスイミング（特定課題）
団 体 名	特定非営利活動法人チャイルド・ケモ・ハウス（兵庫県神戸市）
実 施 概 要	小児がんは医学の進歩により 7～8 割が治癒する病気となったが、治療後数年過ぎて発症する晩期合併症 ^{※1} で社会生活の中断を余儀なくされることもある。本団体は、晩期合併症等の問題を抱えている小児がん経験者に、アーティスティックスイミング ^{※2} という普段経験することがない機会を提供し、子ども達も達成感を味わうことが出来た。今年は他地域での展開を探るために、関心のある団体等に見学や協力を呼び掛ける。

プロジェクト名	知的障がい者のバスケットを通じての居場所づくり～日本代表へ（特定課題）
団 体 名	広島市知的障がい者バスケットボールチーム（広島県広島市）
実 施 概 要	この活動地域には知的障がい者が継続してスポーツできる場所が少なく、特に競技スポーツについては数える程しかない。本団体は、県内唯一となる知的障がい者のバスケットボールチームとして、他県との練習試合や交流大会に参加し、知的障がい者達の社会参加の意欲を高めることが出来た。今年も試合経験を増やしながら、障がいの有無に関係なく誰もが練習の場に来ることが出来るよう、地域に開かれた居場所としての機能も目指す。

※1 晩期合併症には、小児がん治療後の成長発達の異常（身長発育障害、不妊、糖尿病等）、中枢神経系の異常（てんかん、学習障害等）、臓器異常等がある。

※2 アーティスティックスイミングは2018年4月よりシンクロナイズドスイミングから改名した。

プロジェクト名	「Glocal Journey」コミュニティスポーツを活用した地域の国際化（一般課題）
団 体 名	特定非営利活動法人 ワン・フォー・オール（山口県宇部市）
実 施 概 要	山口県宇部市では人口が減少する一方で、在留外国人の人口増加率が高くなっている。そこで、本団体は、Global（国際）と Local（地域）を合わせた造語「Glocal」を掲げ、地元高校生や大学生が中心となり、在留外国人と市民が言葉や文化の違いを超えて理解し合えるスポーツ交流を実施。本年は継続した取り組みの中で、コミュニティスポーツを通じた異文化交流が、多文化共生の実現に効果的であることを明らかにしていく。

プロジェクト名	パットゴルフで「おとな」も「こども」も元気いっぱい（一般課題）
団 体 名	クラブネッツ大畑（山口県長門市）
実 施 概 要	山口県長門市は、児童館の閉館や小中学校の閉校、バス路線の廃止など、少子高齢化とともに過疎化が著しく進んでいる。本団体は、廃校となった学校のグラウンドの一角に「おとな」も「こども」も一緒に楽しめるパットゴルフ場のコースをつくり、大会開催の目途を立てることができた。今年は、より多くの人々が楽しめるようコースを増やすとともに、4ヶ月に1回程度のパットゴルフ大会を開催し、コミュニティの輪を広げていく。

プロジェクト名	走って社会貢献～新しいスタイルのマラソン大会「Adventure」（一般課題）
団 体 名	NPO法人 改革プロジェクト（福岡県宗像市）
実 施 概 要	本団体は、防犯パトロールとランニングを合わせた「パトラン®」を通じて地域の課題解決に取り組んでいる。そのうち「マラソン×地域貢献」を目的とした新しいスタイルのマラソン大会を開催し、地域のネットワークを醸成してきた。今年は、参加者が大会のみならず前後の運営に関わることで、プログラムへの愛着を育てる。大会運営を通して地域での仲間づくりや居場所づくりにつなげ、その後の地域活動への参画を促していく。

プロジェクト名	障がいのある子どもたちの「楽しい」スポーツ・水泳プロジェクト（特定課題）
団 体 名	鹿児島パラアスリートクラブ（鹿児島県鹿児島市）
実 施 概 要	県内の特別支援学校は部活動が少ないこともあり、生徒たちが身近にスポーツに取り組む機会は極めて限られている。本団体は、障がいの程度に関わらず、誰もが楽しくバスケットボールを行う場を定期的に開催している。それにより子どもたちの笑顔が徐々に見られるようになった。今年は取り組みを発展させ、卓球やバドミントン、フットサルなど多様目で健常者も参加できるスポーツ教室を開催し、共生社会の実現を目指す。

第2種 助成対象プロジェクトの推薦理由

(地域や分野の異なる複数の団体が協力してチームをつくりコミュニティスポーツの発展と普及に取り組むもの)

<新 規>

プロジェクト名	北海道岩見沢市のスノースポーツ・コミュニティ再構築プロジェクト ～北欧発祥の「ヒールフリー」のスキー・プログラムを活用して～ (一般課題)
団 体 名	一般社団法人 SLDI (北海道岩見沢市)
代 表 者 名	代表理事 辻本 智也
<推薦理由> 北欧で広く使用されている、踵の上がった「ヒールフリー」のスキーを活用し、スノースポーツに取り組む機会の提供を行い、地元住民のコミュニティ再構築に繋げる。 子供たちには、ヒーヒトマー（フィンランド語でスキーの意味）教室の開催により、遊びを通じたスキーとの接点を創出し、スキー経験者の多い中高齢者にはバックカントリースキー教室の開催で再度スキーを楽しむきっかけ作りを行う。 安価な用具の採用と、大学構内を開催場所とすることで、経済面でのハードルを下げる工夫が意識されているとともに、地元の岩見沢にある自然・大学を有効に活かした産学連携プロジェクトである。 スノースポーツの人口減少に歯止めをかけ、地域の新しいスキー文化を創出・定着させようとする試みをコミュニティスポーツの王道を目指す企画として評価すると共に、活動を通じた地元住民の参加推進に期待したい。	

プロジェクト名	住民が住民に伝える「シルバーリハビリ体操(介護予防体操)」×「健康講話紙芝居(健康教育)」で目指す健康寿命の延伸 (一般課題)
団 体 名	NPO法人 日本健康加齢推進機構 (茨城県水戸市)
代 表 者 名	理事長 大田 仁史
<推薦理由> 本団体は、概ね60歳以上の茨城県民を対象としたシルバーリハビリ体操指導士を養成し、地域での介護予防体操(シルバーリハビリ体操)の普及活動に取り組んでいる。 この事業を発展的に取り組むために健康講話用の紙芝居を作成し、従来の体操教室にプラスしてこの紙芝居を活用し、体操指導士の学ぶ意欲の向上を目指している。そのために、体操指導士を対象として次の2つの事業を行う。①紙芝居の活用法を学ぶ研修会を開催し、さらに②紙芝居を使った取り組みの事例を募り、紙芝居活動事例集の制作と配布を行う。 着実に実績を積み上げてきた従来からの事業であるが、今回行う事業では、さらに、事例集による「良かった点」、「工夫した点」などの情報を体操指導士同士が共有することで、体操教室の質を高めようとしている。今回、このような発展的な取り組み内容に高い評価が得られた。なお研修会報告書や事例集、DVDの作成にあたっては、活用方法を十分に検討していただきたい。	

プロジェクト名	スポーツを通し山の魅力を伝え継ぐ～山離れなんてもったいない！～（一般課題）
団 体 名	NPO法人 武尊根 BASE（群馬県利根郡片品村）
代 表 者 名	理事長 小石 俊一
<推薦理由> 関東随一の豪雪地帯で、3つの谷を擁する群馬県片品村を舞台に、3つに分断された地域をスカイランニングのイベントでつなげ、交流を促進するプロジェクトである。 とても大きなスケールのプロジェクトであり、成功の暁には、他地域からも人が来るような一大イベントとなることが予想される。元々山岳スポーツやスキーなどのウインタースポーツを行う環境があり、スポーツイベントを行う人的なベースも揃っている強みを生かしてもらいたい。 近年は、温暖化からウインタースポーツに対して危機感が募っており、雪が無くてもできるスポーツイベントを開催することは必要である。 今後、指導者育成も視野に入れた大きなイベントに成長し地域の資源となること、それにより人口減少問題の解消や、子ども達の育成につながることを期待する。	

プロジェクト名	地域で支える知的障がい児・発達障がい児対象のサーフィンスクール（特定課題）
団 体 名	認定NPO法人 Ocean's Love（神奈川県茅ヶ崎市）
代 表 者 名	理事長 鈴木 薫
<推薦理由> 本団体は、知的障がい児や発達障がい児を対象としたサーフィンスクールを地域のボランティアとともに全国9か所で取り組んでいる。様々な障がいを持つ子ども達は、普段はなかなか海を楽しむことが難しいとされているが、今回の取り組みを通じて、海と出会う機会を得ることが出来たら良いと思う。 サーフィンは簡単なスポーツではないが、トライするチャレンジ精神が子ども達にたくさんの人々との出会いをもたらすのではないだろうか。海で泣いたり、笑ったり、大声を出したり、自由な時間を紡いでいただきたい。成功体験ではなく、失敗体験も大切だと思う。海の塩っぱさを十分に味わって、互いの個性が生きる場を大事にしてほしい。 子ども達が生き生きとした笑顔になるよう、地域の人たちとともに見守りながら活動を展開されることを期待したい。	

<継 続>

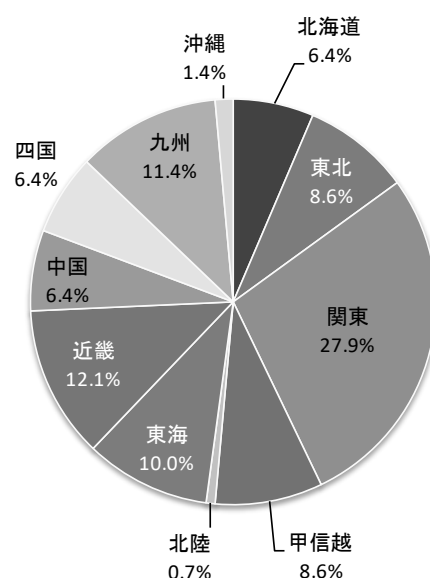
プロジェクト名	発達凸凹の子ども達が輝くインクルーシブな柔道環境をつくる三つの取り組み～ワークショップとオンライン相談会、有志がつながる全国サミット、電子書籍～（特定課題）
団 体 名	特定非営利活動法人 judo3.0（宮城県牡鹿郡女川町）
代 表 者 名	代表理事 酒井 重義
<推薦理由> 発達障害のある子どもたちに対して、運動を通じて身体能力の向上や、社会性の育成を目指す取り組みは、ようやく広がりつつあるものの、武道との組み合わせは例が少ない。忍耐・接触が前提となり、予想できない動きが発生する武道と、発達障害の子どもたちという組み合わせ自体が一つの大きな挑戦だと言える。 1年目には、柔道指導者や保護者に、その機会を提供するための基盤作りを目指して全国9か所で発達障害について学ぶワークショップを展開した。その結果、ワークショップ参加者の前向きな感想が得られたとともに、柔道の先生たちが予想以上に困っていたことから、ニーズが顕在化した。 2年目には、ワークショップの開催地域の展開、ワークショップ参加者有志によるサミットの開催、およびノウハウをブラッシュアップした電子書籍を制作する。選考委員会では、オンラインとオフラインの両方から、これらの活動を推進している事が評価された。 電子書籍の制作においては、その利点を最大限に生かして、柱となる部分と、肉付けとなる部分を明確化し、地域の声が反映されるよう期待したい。	

プロジェクト名	誰もが一緒に安全で安心して海洋スポーツ（パラダイビング）を楽しめる推進プロジェクト（特定課題）
団 体 名	特定非営利活動法人 オーシャンゲートジャパン（大阪府大阪市）
代 表 者 名	代表 白杉 芳彦
<推薦理由> 本プロジェクトは、障がい児・者をはじめ誰もが安心して海を楽しみながら全身で体感し、海そして自然を理解することを目的として「パラダイビング」の普及に努めている。 水と一体化するような身体感覚や身体意識を感じることが、障がい児・者にとって新しい身体との出会いの経験となること、さらにビーチクリーンのプログラムを組み込むことで環境問題への新たな気づきと取り組みになることなど、価値のある事業と思われる。 また、障がい児・者の支援施設や地域支援センターと連携しながら、海洋スポーツ活動への参加を促す方法として、事前の説明会・報告会を重視している。このように事前の説明会と海洋スポーツ活動のプログラム実施を一体的にとらえている点は、事業展開上のモデルを提供するものと評価できる。 2年目の実施にあたって「水際マリンサポーター講習会」が予定されているが、本事業の自走に向けて重要な取り組みになるものと思われる。関係団体との連携をはかりながら着実な取り組みを期待したい。	

第1種・第2種 新規助成の応募状況

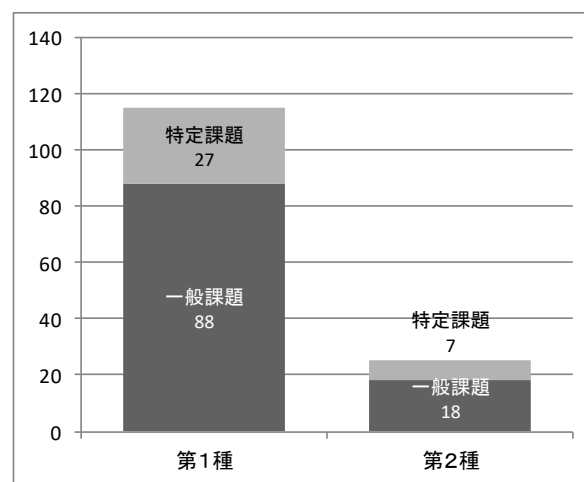
1. 都道府県別

都道府県		団体数			割合
		第1種	第2種	合計	
北海道	北海道	7	2	9	6.4%
東北	青森	5		12	8.6%
	岩手	2			
	宮城	3			
	秋田		1		
	山形				
関東	福島	1		39	27.9%
	茨城	2	2		
	栃木	1			
	群馬	1	1		
	埼玉	2			
	千葉	1			
	東京	15	5		
甲信越	神奈川	7	2	12	8.6%
	山梨	3			
	新潟	4			
北陸	長野	5		1	0.7%
	富山				
	石川	1			
東海	福井			14	10.0%
	静岡	2	1		
	愛知	5			
	岐阜	5			
近畿	三重	1		17	12.1%
	滋賀				
	京都	4	1		
	大阪	6	1		
	兵庫	4			
中国	奈良	1		9	6.4%
	和歌山				
	鳥取	1			
	島根	3			
	岡山	1			
四国	広島	2	1	9	6.4%
	山口	1			
	香川	5			
	徳島				
九州	愛媛	2	1	16	11.4%
	高知	1			
	福岡	2	4		
	佐賀	1			
	長崎	2			
	熊本	3	2		
	大分	1			
沖縄	宮崎			2	1.4%
	鹿児島	1			
		115	25	140	100%



2. 助成種別と助成対象プロジェクト

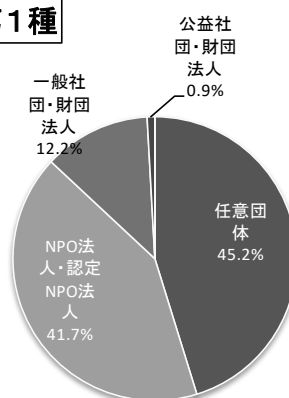
	一般課題	特定課題	合計
第1種	88	27	115
第2種	18	7	25
合計	106	34	140



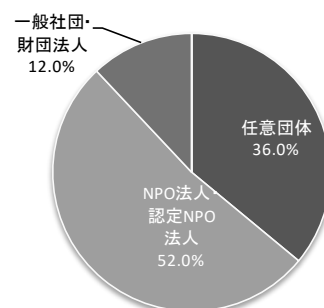
3. 法人種別

	第1種	第2種
任意団体	52	9
NPO法人・認定NPO法人	48	13
一般社団・財団法人	14	3
公益社団・財団法人	1	0
社会福祉法人	0	0
学校法人	0	0
計	115	25

第1種



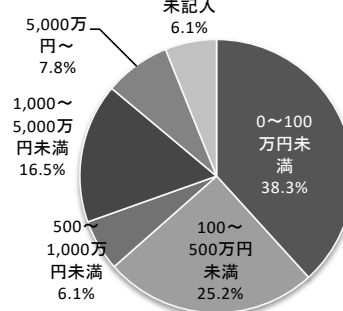
第2種



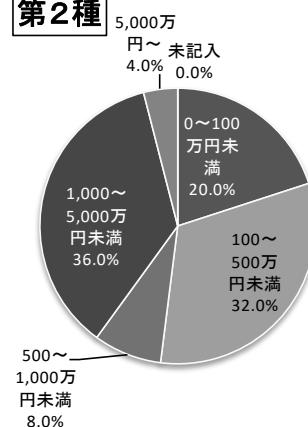
4. 財政規模

	第1種	第2種
0～100万円未満	44	5
100～500万円未満	29	8
500～1,000万円未満	7	2
1,000～5,000万円未満	19	9
5,000万円～	9	1
未記入	7	0
計	115	25

第1種



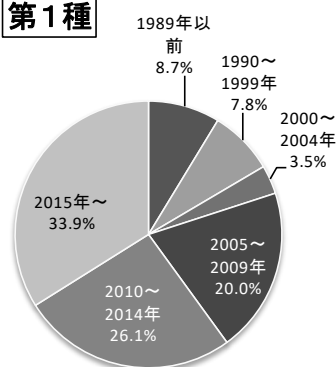
第2種



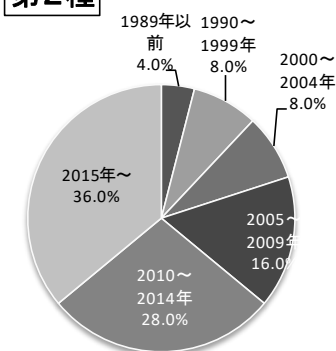
5. 活動年数

	第1種	第2種
1989年以前	10	1
1990～1999年	9	2
2000～2004年	4	2
2005～2009年	23	4
2010～2014年	30	7
2015年～	39	9
計	115	25

第1種



第2種



応募要項

スミセイ コミュニティスポーツ 推進助成プログラム 応募要項

2019 年
新規助成

第1種:50万円まで
第2種:200万円まで

コミュニティスポーツによる
健やかなひとづくりと社会づくりにむけて



応募受付期間: 2019 年 **9 月 4 日 (水)** ~ **10 月 4 日 (金)** 必着

公益財団法人 住友生命健康財団

2019 年 スミセイ コミュニティスポーツ推進助成プログラム【新規助成】

応募要項

コミュニティスポーツによる健やかなひとづくりと社会づくりにむけて

応募受付期間 2019 年 9 月 4 日（水）～ 10 月 4 日（金）必着

住友生命健康財団では、2010 年に財団設立 25 周年を記念し、多様性のある健やかな社会の実現をめざし「スミセイ コミュニティスポーツ推進助成プログラム」を開始しました。

私たちは、コミュニティスポーツを「地域に根ざした市民・NPO・専門家が協力し、スポーツを通じて一人ひとりの健やかな暮らしの実現をめざす取り組み」と捉えています。

本プログラムでは、コミュニティスポーツを楽しむ文化が暮らしの中に根づき、じっくりと実を結んでいくような取り組みを応援します。

コミュニティスポーツを楽しむ全国のみなさまからのご応募をお待ちしています。

なお、このプログラムは、市民社会創造ファンドの企画・運営協力のもとに実施します。



助成対象プロジェクト

助成の対象となるプロジェクトは、次の 2 課題です。

【一般課題】地域の中で一人ひとりの健やかな暮らしの実現につながる独自性のあるコミュニティスポーツの実践

【特定課題】心身の障がいや長期療養などにより社会参加に困難を抱える人々を中心としたコミュニティスポーツの実践

*上記の「実践」には、新たな事業の開発、既存の取り組みの評価やその普及・発展などのために、市民と研究者が協力して取り組む「実践研究」も含まれます。但し、学術目的の研究は含みません。

助成種別

上記の助成対象プロジェクトは、以下の取り組みの視点によって、2 種に分けられます。

【第 1 種助成】特定の地域を拠点として独自のコミュニティスポーツに取り組むもの

【第 2 種助成】地域や分野の異なる複数の団体が協力してチームをつくりコミュニティスポーツの発展と普及に取り組むもの

助成金額・助成件数

1 件あたりの助成金額と助成件数は以下の通りです。

【第 1 種助成】 1 件あたり 50 万円以下、14 件程度

【第 2 種助成】 1 件あたり 200 万円以下、4 件程度

*新規助成の総額は、第 1 種助成と第 2 種助成を合せて 1,400 万円を予定。

助成の対象となる団体

以下の要件を満たすものとします。

- 民間の非営利団体（法人格の種類や有無を問わない）、あるいは民間の非営利団体を含む複数の団体によるチーム
- 日本国内に活動拠点があり、原則として 1 年以上の団体運営と活動実績がある（チームの場合は構成団体の一つにおいてこの要件を満たしている）
- 団体またはチームの目的や活動が政治・宗教などに偏っておらず、反社会的勢力とは一切関わっていない

*助成対象となる団体は、スポーツ分野を専門とする団体に限りません。なお、個人は対象になりません。



応募用紙の入手方法

第 1 種助成と第 2 種助成では応募用紙が異なります。各応募用紙は住友生命健康財団の URL よりダウンロードしてください。

郵送をご希望の場合は、郵便番号、住所、宛名、連絡先（電話番号）を明記し、「スミセイ コミュニティスポーツ推進助成プログラム 応募用紙郵送希望」とご記入のうえ、住友生命健康財団宛に FAX にてご連絡ください。

URL : <http://www.skzaidan.or.jp/>

FAX : 03-3352-2021



応募方法

応募用紙に必要事項を記入した応募企画書を作成のうえ、**10月4日(金) 必着**で、この頁の下に記載してある「応募先」に電子メール(PDF)、あるいは簡易書留・宅配便などの配達記録の残る手段でお送りください。

- *持参での応募は受け付けません。
- *応募書類は返却いたしませんので、必ずデータを応募団体に保管ください。
- *電子メールでの応募があった場合は、事務局より受付完了のメール通知をします。郵送の場合はハガキで受付通知をお送りします。**10月17日(木)**までに通知がない場合は、お電話で事務局までお問合せ下さい。
- *応募書類に記載の個人情報は、「公益財団法人住友生命健康財団の個人情報保護に関する基本方針」を遵守し、適切に管理します。

選考方法

財団が委嘱する学識経験者・実践者・財団関係者で構成する選考委員会(選考委員長 中野泰三郎 元日本バレーボール協会会長、委員 6 名)において、下記の選考基準で選考します。

第2種助成については、提出された応募企画書による選考の他、現地ヒアリングを行う場合があります。

< 選考基準 >

- ① 企画内容に独自性があり、民間が助成する活動に相応しいこと
- ② 地域に根ざした楽しい実践を通じて、健やかなひとづくりと社会づくりの実現が期待できること
- ③ さまざまな分野の人たちが参加し、それぞれの得意分野が活かされていること
- ④ 企画内容(方法、体制、予算など)が目的に照らして十分に検討されていること

< 以下は第2種助成のみの選考基準 >

- ⑤ 他の地域や市民活動への波及効果が期待できること
- ⑥ 多様な団体が協力するためのマネジメント体制が整っていること

選考結果

選考結果は2020年2月末までに全応募者宛に文書にて通知します。なお、選考総評、助成対象一覧(プロジェクト名、団体またはチーム名、代表者名、助成金額を記載)、推薦理由などの選考内容は、住友生命健康財団のホームページ、メディア等へのリリースにて公表します。

助成期間

2020年4月1日～2021年3月31日(1年間)

*毎年度の応募と選考を経て、次年度に継続して助成を行うことも可能です。

助成手続など

助成決定後の手続き等は以下の通りです。

- *助成決定後、助成に関する覚書を締結したうえで、助成金(全額)を振り込みます。
- *助成対象者には2020年4月中旬に都内で開催する表彰式に参加いただきます。
- *2020年10月末日までに中間報告書、2021年4月末日までに完了報告書を提出いただきます。

< 助成金の使途 >

プロジェクトに関わる費用で下表の通りですが、必要なものはこれ以外も可とします。

費 目	内 容
旅費交通費	交通費、宿泊費など
謝金	講演料、講師料など
会議費	会場代、配布資料コピー代など
通信運搬費	送料、電話代など
印刷費	デザイン料、製本費、印刷代など
資料費	図書・資料・文献購入費など
機材・備品費	スポーツ用具代など(1点30万円以内)
消耗品費	各種文具等の購入費など
事務局人件費	事務局スタッフの人件費、アルバイト代など
事務局諸経費	事務所の光熱水費、家賃などの按分



これまでに助成を受けた活動の現地インタビューの記録は、こちらをご覧ください。

http://www.skzaidan.or.jp/#sport_situation

応募先・お問い合わせ先

公益財団法人住友生命健康財団 事務局(担当: 太田・天野)

〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町4-41 住友生命四谷ビル6階 TEL: 03-5925-8660 FAX: 03-3352-2021

E-mail: sports@am.sumitomolife.co.jp

2019 年度 スミセイ コミュニティスポーツ推進助成プログラム

【参考】2018年助成対象 一覧

第1種＜新規＞助成 (19件、890万円)

一般	特定	プロジェクト名	団体名	所在地
○		みなスポ！へスポーツ活動の周知と統合型多種目スポーツ地域の創設～	生涯スポーツサークルあくていぶ！	宮城県 南三陸町
○		庄内海岸スポゴミ・サンセット・サンライズ大会	NPO法人 公益のふるさと創り鶴岡	山形県 鶴岡市
○		チャレンジ・ザ・ジュニアライフセービングプロジェクト	NPO法人 勿来まちづくりサポートセンター	福島県 いわき市
	○	4市連携による全国に普及可能な障害児者が地域で参加できる コミュニティスポーツの場づくりと指導者育成	NPO法人 アダプティブワールド	東京都 稲城市
○		「ラグビーをもっともっとみんなのスポーツに」プロジェクト	北陸タグラグビーフェスタ実行委員会	石川県 小松市
	○	障がい者のスポーツ教室	NPO法人 越前市障がいスポーツクラブ	福井県 越前市
○		【心の健康（メンテサナ）、体の健康（クエルボサノ）】 サッカー×教育プロジェクト	Comerciante Osaka FC	大阪府 大阪市
	○	「できない」意識から「できる」自信へ意識の変革を行うスキーツアー	きょうりゅうクラブ	大阪府 大阪市
	○	多様性が活かせるコミュニケーションスポーツ「風船バレーボール」	一般社団法人ぐるり	大阪府 箕面市
○		子ども親も、体力づくり事始め	NPO法人はんもっく	大阪府 箕面市
	○	小児がん経験者のためのアーティスティックスイミング	NPO法人 チャイルド・ケモ・ハウス	兵庫県 神戸市
	○	津和野町にある方もない方も、スポーツやスポーツにまつわる活動でつなぐ 地域の居場所プロジェクト「ゆるり」	一般社団法人 i-rosso	兵庫県 三田市
	○	ハートフルスポーツの集い	NPO法人 スポーツライフ'91天城	岡山県 倉敷市
	○	知的障害者のバスケットを通じての居場所づくり～日本代表へ	広島市知的障がい者バスケットボールチーム	広島県 広島市
○		「Glocal Journey」コミュニティスポーツを活用した地域の国際化	NPO法人 ワン・フォー・オール	山口県 宇部市
○		パットゴルフで「おとな」も「こども」も元気いっぱい	クラブネッツ大畑	山口県 長門市
	○	ユニバーサルデザインを軸としたコミュニティづくり 「ふうせんバレー（体験教室）」	さらスポーツクラブ	香川県 高松市
○		走って社会貢献～新しいスタイルのマラソン大会「Adventure」	NPO法人 改革プロジェクト	福岡県 宗像市
	○	障がいのある子どもたちの「楽しい」バスケットボールプロジェクト	鹿児島県バラスリートクラブ	鹿児島県 鹿児島市

第1種＜継続＞助成 (14件、588万円)

一般	特定	プロジェクト名	団体名	所在地
○		「おとな×こども」アスレチック・プレイパーク	地いき 楽しく アイビーナ	岩手県 奥州市
○		雪の降らない釜石市で、子供も親もスポーツ雪合戦	総合型地域スポーツクラブ 唐丹すぽこんクラブ	岩手県 釜石市
○		いきいき健康・生きがいづくりプロジェクト	NPO法人 エムジョイ	岩手県 宮古市
○		スポーツで広げる「湾岸ネットワーク」コミュニティ	湾岸ネットワーク	東京都 中央区
	○	チャレンジパーソンゴルフ（障害者ゴルフ）	ジャパンゴルフティーチングフェデレーション	神奈川県 横浜
	○	ユニバーサルデザインのヨット体験から始まる、江の島のセーリング・ スポーツの輪！活動マニュアルでもっと広く広げよう！	NPO法人 セイラビリティ江の島	神奈川県 藤沢市
	○	北信フライングディスククラブ	北信フライングディスククラブ	長野県 長野市
	○	児童発達障害児者の自立防止に向けた バドミントン・フットサルコミュニティ	NPO法人 全国こども福祉センター	愛知県 名古屋
○		マイクリング・プロジェクト	市民団体 マイクリング・プロジェクトチーム	滋賀県 米原市
○		地球一周 40000kmわくわくウォーキング	総合型地域スポーツクラブ 小津クラブ	滋賀県 守山市
	○	自閉スペクトラム症（ASD）児のための水泳教室	NPO法人 岡山県自閉症児を育てる会	岡山県 赤松市
	○	障がい者の運動づくりとスポーツでつなぐ地域とのコミュニティプロジェクト	NPO法人 夢創房室戸迎館の杜	高知県 室戸市
	○	障がい者のためのスポーツ交流体験広場	NPO法人 ISC糸島スポーツクラブ	福岡県 糸島市
	○	不妊うつ解消のためのスポーツプログラム	ママそら☆くまもと	熊本県 熊本市

第2種＜新規＞助成 (4件、634万円)

一般	特定	プロジェクト名	団体名	所在地
	○	発達障害のある子どもへの発達指導に関する全国10か所でのワークショップ ～2020年度5回のレガシーとしてインクルーシブな未来環境をつくる～	NPO法人 judo3.0	宮城県 女川町
	○	未来の大阪の運動会	未来の大阪の運動会実行委員会	大阪府 大阪市
	○	誰もが安全に安心して海を体験できる海洋スポーツ（パラダイビング） 普及プロジェクト	NPO法人 オーシャンゲート ジャパン	大阪府 大阪市
○		奄美の伝統文化「舟こぎ」を通じたコミュニティスポーツプロジェクト	奄美舟こぎ協会	鹿児島県 奄美市

第2種＜継続＞助成 (1件、150万円)

一般	特定	プロジェクト名	団体名	所在地
○		秋田県内全域を結ぶランニングコミュニティづくり	Good Morning RUN in AKITA	秋田県 秋田市

財団概要

名 称 公益財団法人 住友生命健康財団
所 在 地 〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町 4 番 41 号
住友生命四谷ビル 6 階
TEL (03) 5925-8660 FAX (03) 3352-2021
設立年月 1985 年(昭和 60 年)6 月
2011 年(平成 23 年)4 月 1 日公益財団法人へ移行
理 事 長 青戸 雅之
設立の趣旨
当財団は、広く国民に心身の健康に関する啓発活動を行い、あわせて地域の健康増進に貢献する活動を推進することにより、国民の心身の健康と健やかな生活の増進を図り、もって社会公共の福祉に貢献することを目的としています。

◆ホームページでイベント情報などをお知らせしております。

住友生命健康財団

検索

<http://www.skzaidan.or.jp/>

本プログラムは特定非営利活動法人市民社会創造ファンドの企画・運営協力のもとに実施しています。